

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【東大成小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	今年度同様、国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」及び算数の「数と計算」を重点課題としたい。学年間、個人間で大きな差がみられるため、個別に必要な支援を講じていく必要がある。ICTを効果的に活用し、漢字や基本的な計算の反復・習熟に取り組んでいきたい。また、従来の授業形態を見直し、児童自らが知識・技能を身に付けられるような指導方法を校内で研究していきたい。	
思考・判断・表現	今年度同様、算数「図形」の領域を重点課題としたい。身に付けた公式を活用できるようにするために、自身の考えを説明する活動や他者と学び合う活動を授業の中に位置付けていく。また、R6市学習状況調査から国語の「書くこと」「読むこと」などの読解力に課題がある学年が複数みられたので、単元構成を工夫したり言語活動が充実した授業を展開したりしていきたい。	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	【学習上の課題】国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」及び算数の「数と計算」において課題がみられる。 【指導上の課題】知識・技能の定着を図るためのICTを活用した個別最適な学びにおいて、学級や学年ごとに差がみられる。	⇒ 漢字や言葉の使い方、四則演算の定着をより高めるために、「ドリルパーク」等、個別に蓄積されたデータを効果的に活用していきたい。また、SAやTTを効果的に活用し、苦手意識のある児童に対して、個別最適な指導を丁寧に行う。【毎週実施】
思考・判断・表現	【学習上の課題】学年が上がるにつれて、「思考・判断・表現」に関する設問への正答率が低下する傾向がある。 【指導上の課題】授業の中で自分の考えを表現する活動や他者と学び合うことが少ない傾向がある。	⇒ 自分の考えを表現する活動の中で根拠となる文献や図表、データ等を明確に示せるよう指導を重ねていく。また、他者と学び合うことでよりよい考え方や根拠に気付くことができるよう授業を展開していく。【毎授業で実施】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	B	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) 国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」及び算数の「数と計算」において課題がみられていたが、漢字や言葉の使い方、四則演算の定着をより高めるために、ICTを活用してきたことでR6年度さいたま市学習状況調査では、市平均を2学年が上回り、成果がみられた。引き続き指導を継続していきたい。
思考・判断・表現	B	学年が上がるにつれて、「思考・判断・表現」に関する設問への正答率が低下する傾向があったが、R6年度さいたま市学習状況調査では、高学年の正答率は市平均を上回り、改善がみられた。各教科で言語活動の充実を図り、他者と協同的な学びを実践していることが、成果として表れてきている。しかし、「書くこと」「読むこと」などの読解力に課題がある学年が複数みられたので、引き続き指導を継続していきたい。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題がみられた。漢字の書き取りの問題では、無回答率が全ての問題の中で最も高かった。漢字や言葉の使い方については引き続き課題意識をもって指導に当たる必要があり、児童の学習意欲を高める指導の工夫していく。 算数では、「数と計算」に課題がみられた。数量関係を捉えることができず、正しく立式ができなかったり、四則演算を間違えてしまったりする児童が多い傾向がみられる。具体物や図などを用いて問題場面を正しく把握できるように指導していく。	
思考・判断・表現	国語では、すべての領域で全国平均・市平均を上回ることができた。しかし、問題別の正答率を見ると、「書くこと」の問題で自分の考えを伝えることに課題が見られた。各単元で行われる言語活動の中で、伝えたいことを明確にした書き方を指導していく必要がある。 算数では、「図形」の問題で課題が見られた。無回答率も全ての問題で最も高かった。公式を使った面積や体積を求める問題など「なぜその公式になるか」を考えたり説明したりする活動を授業の中で取り入れていく必要がある。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	課題であった国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、4学年のうち2学年が市平均を上回り、2学年が下回った。算数「数と計算」では、4学年のうち3学年が市平均を下回った。基礎学力の定着が図れるように指導方法を見直し、授業改善を進めていく。	
思考・判断・表現	課題であった算数「図形」の問題については、4学年のうち2学年が市平均を上回り、2学年が下回った。引き続き公式を活用して説明ができるような活動を授業の中で取り入れていく。 社会では、異集団・同集団(6年のみ)経年比較において、5・6年ともに昨年度の結果を上回った。自分の考えを表現する活動や他者との学び合いによってよりよい考え方や根拠に気付くことができる授業を実施した成果が表れた。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	C	「ドリルパーク」等を活用した、漢字や計算の反復・習熟としての活用が学級や学年によって差が見られた。 また、SAやTTを活用した授業があまりできなかった。	ICTを使った反復・習熟の学習を授業に限らず活用していき、学年で共通理解を図りながら指導にあたる。【毎週実施】 SAの配置やTTの時間割を見直し、学習指導上で困難な児童に指導が行き届くようにする。
思考・判断・表現	B	言語活動の充実を図り、他者と協同的な学びを実践することができている。ただ、話し合いだけが目的になってしまっており、話し合いの視点を明確にしたり、ICTを用いた思考ツールなどを効果的に活用したりすることが必要である。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)